

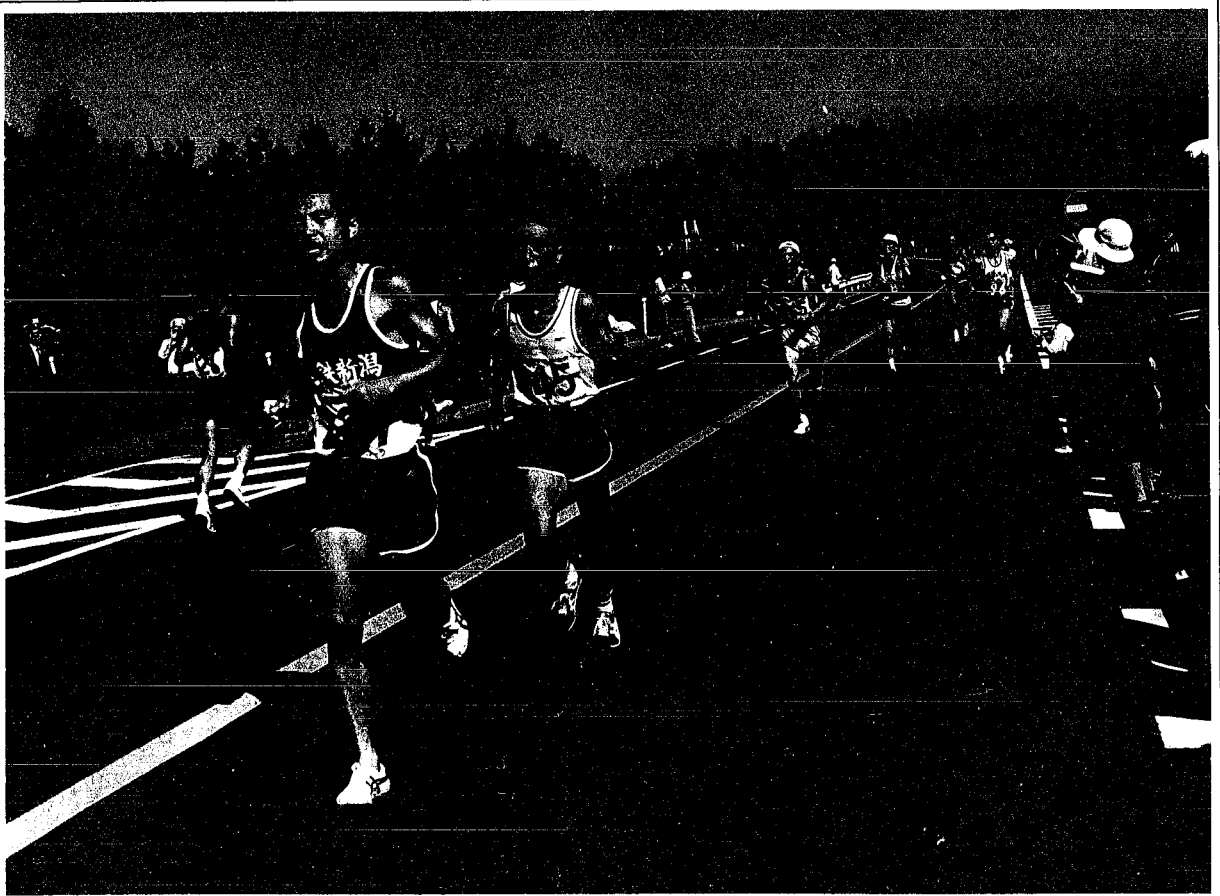
新 特
集 春

市報 にいがた

市の人口

前月比	4089
人口	461,884(+)
男	226,393(+)
女	235,491(+)
世帯数	149,474(+)
58年11月末現在	161)

発行日 毎週日曜日
 発行所 新潟市役所
新潟市西大通6番町
 電話 281000
 編集人 二宮 省三
(現当業出版法第10条)
 印刷所 徳第一印刷所



いっしょに走ろう
 明日に向かって

上越新幹線が疾走する。北陸・関越の高速自動車道が伸びる。東京や大阪への距離がぐんと縮まった。港や国際空港もあり、対岸諸国との交流も盛んだ。そして今、新しい情報通信革命の波—テレピア（未来型コミュニケーションモデル都市）構想により、私たちの生活が再び大きく変わろうとしている。この変化を積極的に取り入れ、21世紀の街づくりを始めよう。さあ、いっしょに走ろう、明日に向かって。（写真は昨年第1回新潟マラソン大会から）

昭和59年を迎えて

市民の皆さん、あけましておめでとうございませう。

昨年もまた、国の内外ともに明るい年であったとは申せません。強い関心と期待が寄せられている景気も、底離れはしたと言われていますが、一般的には、その実感がわいてまいりません。

今年はどうなるのだろうかかと心配です。今年も心を引き締めて頑張らなければならぬと思います。

市長に就任して以来、早くも、年を迎えようとしていまして。これまでの「市民生活優先」の基本理念を堅持しつつ、市政運営に努めてまいりました。この間、市政懇談会などを通じ、市民の皆さんとヒザを交えて話し合い、市内の各地を回るなかで、いろいろなご意見やご希望をお聴きしました。それらを踏まえながら、それぞれの担当者から事業の報告を受け、山積する課題の認識を深め、市長としての責務の重大さを実感として受け止めております。

そして今、新年度予算の編成作業に入っておりますが、五十九年度の財政環境は例年にならぬ厳しさを感じております。限られた財源のもとで、あらゆる創意工夫をこらしながら、市民福祉の向上を目指した諸条件の整備に努めなければなりません。

また、既に着手しております駅南開発や千歳大橋、美術館、ごみ焼却施設の建設——など大型プロジェクトのほか市庁舎の建設をはじめ産業会館、複合体育施設の建設、信濃川の架橋——など大事業が考えられるところでありますが、厳しく困難な状況を克服しながら推進していかなければならない、という大きな課題も抱えております。

二十一世紀へ向けたまちづくりのための第一、次総合計画の策定も始まりました。

「新潟市が目指すまちづくり、いわゆる「人」と人とのふれ合い」を大切にすすま、そして新潟の特性を生かした「活力ある」まちづくりを、市民の皆さんと一緒に進めていきたいと思います。

今年、苦しいことが多いと思いますが、やがていのある年にしたい、と思っております。

皆さんもご苦労が多いと思いますが健康に留意され、この一年、頑張ってくださいようお願いして、新年のごあいさついたします。



市長 若杉 元喜

昭和五十九年元旦